



14世紀のアイルランド、ペスト疫病の猛威！ ティル・ナ・ノーグ 理想郷へ、若き修道士の神秘観想の遍歴

「深き内省の旅への恐怖を克服された
全ての人々に捧げる」

内容

この作品は、修道士ウィルフリッドが『常若の国』を目指すも、志半ばにして病死する、ただそれだけの物語である。
1349年の晩夏。疫病が猖獗を極めるヒベルニア。理想への逃避行。辛苦を忘却するための耽溺から、真理の愛求に動機を変えて、観念に潜思する若き修道士。悪の離隔を経て、知識の鍵を獲得し、感謝、承認、喜びを携え、愛の懐へ。終極における神秘の交わりによって開示されたものとは？

編集者から一言

1349年、ペストが猛威を振るうアイルランド。三人の修道士が『ティル・ナ・ノーグ』へ逃避行する。生意気な若き修道士ウィルフリッド、実直な性格の修道士ファーガス、そして逃避行を決意した老修道士エドウィン。その道中、エドウィンとファーガスに不幸が押し寄せる。そしてやがてウィルフリッドの身にも……。彼の命が終わろうとする時、神秘の体験が待ち受けていた。愛の探求によって開かれた真理とはいかかるものだろうか？

最も近き希望
倉石清志(Seiji Kuraishi)
ISBN 978-4-905520-06-1
価格1800円（税別）

